

6. 観光分野

戦略の柱1 滞在型の観光地づくり

施 策	背景・課題・視点	アクションプラン	基本戦略				主な事業主体	主な内容
			I	II	III	IV		
1. 地域の観光資源、フィールドを活かした滞在型の観光商品づくり	・観光による経済波及効果を拡大するためには、出来るだけ長く滞在、宿泊してもらうことが必要。 ・観光(旅行)ニーズが多様化、細分化しており、きめ細かな観光リサーチや市場ニーズの把握により、マーケットインの視点に立った、満足度、リピート率の高い観光商品への磨き上げと新たな観光商品づくりが必要。 ・山川海すべて揃ったフィールド、地域素材を観光に活かした新たな通年型・滞在型の観光商品づくりを進めるためには、異業種(農林水産業、商工業)も参加し、自由に発想やアイデアを出し合い、企画提案できる場が必要。 ・多様な実施主体(商工・観光関係団体、地域など)によるイベントの開催や体験メニュー等があるが、効果等の検証が不十分で、横の連携もとれていない。 観光商品としての側面から、検証し磨き上げ、年間を通して繋ぐことで、より効果的な展開が図れる。 ・本市の観光は、シーズンと閑散期がはっきりしており、観光入込客数の拡大には、閑散期の対策が必要。 女子旅やシニア層をターゲットに、自然(環境)、体験、食、健康(美容、温泉)などをキーワードとしたブランディングなど、ターゲット(エリア、年齢、性別など)とテーマを明確にした商品の企画が必要。 ・“食”は本市の強みであり、農林水産業、商工業との連携を深め、観光面でもこれまで以上にスポットを当て、“食のまち”としての観光地づくりを進めることが重要。 一方、中心市街地における屋間営業の店舗数が少ないといった課題もある。 ・多様化する旅行者のニーズや旅行商品の販売形態を踏まえ、これまで磨き上げてきた自然・体験型の観光と歴史や文化、食と組み合わせ、新たな経済効果を生み出す仕組みづくりが必要。	【観光AP1】 (1)観光リサーチの徹底	○				四万十市 (観光商工課) 観光協会 幡多広域観光協議会	○観光マーケティングリサーチ 《連携AP7》
		【観光AP2】 (2)今ある観光商品の磨き上げ	○	○			四万十市 (観光商工課) 観光協会 幡多広域観光協議会 四万十市観光振興 連絡会議 西土佐観光推進 協議会 四万十市体験型観光 受入研究会	○観光商品としての検証と磨き上げ 《連携AP7》
		【観光AP3】 (3)新たな観光商品づくり	○	○			四万十市 (観光商工課) 観光協会 幡多広域観光協議会 四万十市観光振興 連絡会議 西土佐観光推進 協議会 四万十市体験型観光 受入研究会	○観光商品づくり研修会等の開催 《連携AP7》 ○異業種連携の強化 《連携AP7》
		【観光AP4】 (4)食の魅力を活かした観光振興	○	○	○		四万十市 (観光商工課) 観光協会 四万十市観光振興 連絡会議 西土佐観光推進 協議会 四万十市体験型観光 受入研究会 四万十黒潮旅館組合 商工会議所、商工会 中村料理飲食店組合 中村菓子パン 工業組合	○食の魅力を活かした観光地づくり 《連携AP11》 ★自然・体験型の観光と歴史や文化、食とが一体となった観光プログラムの造成・発信及び販売 《連携AP11》 ★四万十牛を核とした西土佐地域の産業振興 《連携AP3》

※基本戦略: I 足腰を強め、地力を高める II 産業間の連携を強化する III 情報発信と外商の強化 IV 産業の担い手、人材の確保・育成

計画期間						目指すべき姿 (目標値)	産業間連携等
R2	R3	R4	R5	R6	R7		
						◆マーケットインの視点に立った、満足度、リピート率の高い滞在型の観光商品づくりが進んでいる	【連携AP7】 滞在型の観光商品づくり 県計画地域AP ◆四万十市の地域資源を活用した通年・滞在型観光の推進
・観光客や旅行会社及びふるさと応援団等へのマーケティングリサーチによるニーズ把握 ・宿泊者の観光動向調査 ・全国(ふるさと応援団等)から四万十市の魅力を募集し、観光資源の掘り起こしと磨き上げ ・地域の観光資源、フィールドを活かした滞在型の観光商品の開発と今ある観光商品の磨き上げへ反映							
						◆多様な実施主体が連携を強め、満足度、リピート率の高い滞在型の観光プログラムを持続的に展開している	
・多様な実施主体(商工業者、観光事業者、地域等)が行う、イベント、体験メニュー等について、観光商品としての側面から効果等を検証し、有望なイベント、体験メニュー等を磨き上げ ・旅行会社を招致し、観光メニューの検証や現地視察等を実施し、販路を意識した商品の磨き上げと商品採用に向けたセールスを展開							
						◆各分野と連携した滞在型観光商品が造成され、通年で観光メニューを展開している	
・観光商品企画等のための勉強会等を開催 ・閑散期のターゲット(女性、シニア層、外国人など)の絞り込みとターゲットに合わせたメニュー開発(自然(環境)、体験、健康、食、温泉などをテーマとした閑散期の滞在型観光メニューづくり)							
							
・異業種(農林水産業、商工業など)連携の強化(異業種間の情報共有、ノウハウや技術の連携による商品の開発の芽出し、サービスの向上や情報発信の強化) ・農林水産業、商工業との連携を促進し、グリーンツーリズムや田舎体験など通年型・滞在型の観光商品づくりを推進							
						◆四万十の“食”として市内外の知名度が向上し、観光誘客や観光消費額の拡大につながっている ◆県内平均消費額(四万十川) H29: 28,869円 →R7: 33,000円 ◆産業祭来場者数 H30: 20,000人 →R7: 54,000人/6年	【連携AP3】 地元農畜産物を使った商品開発 【連携AP11】 “食”の発信 県計画地域AP ◆四万十市の地域資源を活用した通年・滞在型観光の推進
・四万十の食文化(地域の食材や郷土料理)の掘り起こしや磨き上げと連動し、食のまちとしての観光地づくりを推進 ・旬の食材によるキャンペーンなど期間限定による誘客の仕組みづくり ・食のイベント等との連携による四万十の“食”を前面に打ち出した観光振興							
							
・県が進める観光プロモーション活動(R01～R02リョーマの休日～自然体験キャンペーン～など)との連携による発信強化 ・本市の自然景観やビュースポット等と、それらを活かしたアクティビティや地域の体験プログラム、歴史・文化や食などの観光資源が一体となった観光プログラムを造成し、周遊を促進する。 ・自然・体験型の観光基盤や周遊コースの整備にあたっては、外国人観光客の受入にも対応させ誘致拡大につなげる。							
							
・西土佐地域の事業者と行政が連携して設立した「西土佐地域産業振興推進協議会」を中心に四万十市を活用した地域活性化の取り組み							

※主な内容: ★は新規、◎は拡充、○は継続

戦略の柱1 滞在型の観光地づくり

施 策	背景・課題・視点	アクションプラン	基本戦略				主な事業主体	主な内容
			I	II	III	IV		
2. 広域連携による周遊観光の推進	・幡多広域、四万十川流域、県域を越えた四国西南地域、予土線県境地域、高知県の全市町村を構成するれんけいこうち広域都市圏など様々な広域連携の枠組みによる組織が設立、運営されている。 ・それぞれの圏域(枠組み)の目的、特色を活かした周遊観光プラン等の造成、情報発信、販売に取り組む必要がある。 ・幡多広域観光協議会では、修学旅行受け入れで蓄積したノウハウや仕組みを活かして個人型旅行商品の開発・販売に取り組んでいる。 ・予土県境地域連携実行委員会では、サイクリングを切り口として予土県境域の地域振興とサイクルツーリズムの定着支援、地域協働の観光振興に取り組んでいるが、通過型観光になっているため滞在型観光への転換が課題。	【観光AP5】 (1)広域連携による周遊観光の推進	○	○	○		幡多広域観光協議会 予土県境地域連携 実行委員会 四万十川流域市町村 観光振興連絡会 四国西南地域 観光連絡協議会	○周遊観光プランの造成・発信及び販売 《連携AP7》 ○広域連携によるキャンペーンの展開 《連携AP9》

※基本戦略: I 足腰を強め、地力を高める II 産業間の連携を強化する III 情報発信と外商の強化 IV 産業の担い手、人材の確保・育成

計画期間						目指すべき姿 (目標値)	産業間連携等
R2	R3	R4	R5	R6	R7		
						◆様々な広域連携の圏域(枠組み)の目的、特色を活かした周遊観光プランの造成、情報発信・販売が進み、多様な選択肢を備えた観光エリアとして、幅広い観光客が訪れている ◆広域における一般観光客数 H30:118万466人 →R7:64,500人増 ◆広域におけるスポーツ客数 H30:17万8,977人 →R7:12,200人増 ◆広域組織における5つの機能 ①商品の企画・立案 ②商品の造成、販売、取扱 ③広報、情報発信、窓口 ④地域の人材育成 ⑤観光産業化 R7:強化	【連携AP7】滞在型の観光商品づくり 【連携AP9】観光商品のセールス・情報発信 <u>県計画地域AP</u> ◆幡多広域における滞在型・体験型観光の推進 ◆幡多広域におけるスポーツツーリズムを核とした交流人口の拡大と地域の活性化
・幡多広域観光協議会を核とした幡多広域圏での周遊観光プランの造成・発信及び販売 ・四万十川流域市町村観光振興連絡会議での山・川・海の周遊観光プランの造成・発信 ・四国西南地域(四国西南サミット観光部会、四国西南地域観光連絡協議会、予土県境地域連携実行委員会)での県境を越えた周遊観光プランの造成・発信 ・四国ツーリズム創造機構との連携による周遊観光プランの造成・発信 ・れんけいこうち広域都市圏による魅力的な資源の発掘・創出及び活用や、それらの効果的なPR、また、圏域全体での周遊観光の造成や情報発信、受入体制の整備に取り組む							
							
・これまでに造成した各種イベント、体験メニューのブラッシュアップ ・幡多広域圏で統一したイメージによるキャンペーンの展開							

※主な内容:★は新規、◎は拡充、○は継続

戦略の柱2 観光商品の外商の推進

施 策	背景・課題・視点	アクションプラン	基本戦略				主な事業主体	主な内容
			I	II	III	IV		
1. 観光商品のセールス及び情報発信の強化	・イベントを通じた「待ちの誘客」から旅行会社への営業やSNS等を重視した「動く誘客」へのシフト ・市、観光協会、幅多広域観光協議会の役割を明確にし、それに応じた人材、組織のスキル(商品企画、プレゼンテーション等)の向上が必要。 ・市内の観光関連事業者(宿泊施設等)の企画提案力、情報発信力には差異があり、限界もある。 協議会、組合等による組織力を高める必要がある。 ・旅行会社の種別、特性(取扱商品、顧客層、販売期間等)に応じた効果的な営業活動が必要。 また、旅行代理店の発信力を活用した外国人観光客(主に台湾、中国等のアジア圏)の誘客強化という視点も必要。 ・観光商品のターゲット(エリア、年齢、性別など)とテーマ、旅行形態(団体旅行、個人旅行)、情報入手源(旅行代理店(窓口、パンフレット)、ネット、情報誌・ガイドブックなど)を明確に意識した営業活動が必要。	【観光AP6】 (1)観光商品のセールス強化	○			○	四万十市 (観光商工課) 観光協会 幅多広域観光協議会	○営業力のある人材、組織の育成 《連携AP9》 ○旅行会社への営業活動の促進 《連携AP9》 ○旅行商品商談会等への出展 《連携AP9》 ○海外への営業活動の促進 《連携AP9》
		【観光AP7】 (2)広報・プロモーションの強化	○	○	○		四万十市 (観光商工課・関係課) 観光協会 幅多広域観光協議会	○多様な媒体を活用した広報活動の強化 《連携AP9》 ○一元的な情報発信の促進 《連携AP8、9、11》 ○ターゲットに合わせたプロモーションの展開 《連携AP9》 ◎産業間連携や広域連携による誘客(PR)活動 《連携AP9、11》

※基本戦略: I 足腰を強め、地力を高める II 産業間の連携を強化する III 情報発信と外商の強化 IV 産業の担い手、人材の確保・育成

計画期間						目指すべき姿 (目標値)	産業間連携等
R2	R3	R4	R5	R6	R7		
→ ・市、観光協会、幡多広域観光協議会の役割の明確化と連携強化 ・役割分担に応じたスキルの磨き上げと組織力の強化						◆観光人材・組織のスキル(商品企画、営業力等)が向上し、観光誘客の拡大につながっている	【連携AP9】観光商品のセールス・情報発信 県計画地域AP ◆四万十市の地域資源を活用した通年・滞在型観光の推進 ◆幡多地域産品販売体制の構築
→ ・旅行会社の商品化の動きに合わせた着地型商品の営業活動を展開(旅行会社の種別、特性に応じた商品をピックアップし営業を強化) ・高知県観光コンベンション協会主催のセールスキャラバンへの参加							
→ ・高知県観光コンベンション協会、幡多広域観光協議会主催の商談会等への出展							
→ ・県と連携した海外(主にアジア圏(台湾等))へのセールスの実施							
→ ・観光ガイドブック、ホームページ等情報発信ツールのリニューアルと多言語化 ・SNSを活用したリアルタイムの情報発信 ・観光情報誌等発信力のある民間企業等の媒体を活用した広報活動の展開						◆多様な広報・プロモーション活動が展開され、観光誘客につながっている ◆観光協会ホームページアクセス数 H30: 189,053件 →R7: 220,000件	【連携AP8】地域産品の発信と販路開拓・拡大 【連携AP9】観光商品のセールス・情報発信 【連携AP11】“食”の発信 県計画地域AP ◆四万十市の地域資源を活用した通年・滞在型観光の推進 ◆幡多地域産品販売体制の構築
→ シティプロモーションの推進 ・「川とともにいきるまち」をキャッチフレーズに、市のロゴマークを使用したツール等を活用し、各産業分野で統一感あるPR活動など、様々な手法でプロモーションを推進							
→ ・ターゲットの絞り込み(ファミリー、シニア、女子会、外国人など)とテーマ性を持ったプロモーションの展開							
→ ・都市圏での“食”や物産の販促活動と連携した誘客(PR)活動の展開(「四万十フェア」の開催など) ・友好都市と連携した物産展等での誘客(PR)活動の展開 ・幡多広域地産外商協議会において、広域連携による量販店でのフェア等の開催、パイヤー招致などの外商活動と観光情報発信・PR活動を一体的に推進 ・しまんとリバーベキュープロジェクトの実施(農林水産物の活用、新商品開発、観光誘客など)							

※主な内容: ★は新規、◎は拡充、○は継続

戦略の柱3 おもてなしの向上

施 策	背景・課題・視点	アクションプラン	基本戦略				主な事業主体	主な内容
			I	II	III	IV		
1. おもてなし環境の整備	・多様化、細分化する観光(旅行)ニーズと既存の観光拠点施設(カヌー館、四万十桟舎、かわらっこなど)機能のミスマッチが生じていないか検証し、新たな機能、施設を拡充していくことが必要。 ・本市の北の玄関口の拠点施設「道の駅よつて西土佐」の観光機能等の充実と四万十川流域の拠点施設との連携を強化し周遊観光を促進することが必要。 ・公共交通機関を利用する観光客の市内周遊につながる二次交通が不十分。 体験等メニューや周遊コース、シーズンに対応した路線バス、周遊バス、おもてなしタクシー等の運行形態の見直しと拡充が必要。 ・周遊しやすい環境づくりと外国人観光客に対応するため、観光案内板、誘導標識の増設と多言語化、パンフレットの多言語化やのWi-Fi環境整備の拡充などによる観光案内機能の充実が必要。 ・携帯型端末(スマートフォンなど)の普及により、ICTを利用した観光情報の取得が主流になっている。 Wi-Fi環境の整備に加え、市内の観光情報、地域情報を入手しやすい方法で配信することが求められる。 ・プランを持たず目的地で体験や興味のあるところを探す観光客も増えている。 観光客が現地で観光情報を入手できる、あるいは旅のアレンジの相談や体験メニュー等の手配が容易にできる環境づくりなど、旅のニーズにワンストップで対応できる仕組みが必要。 ・体験、食、宿泊、地理情報等の観光情報と特産品、イベント等の地域情報を網羅した一元的な情報発信により、自分なりの旅プランを見つけるきっかけづくりや周遊観光の利便性向上につながる。	【観光AP8】 (1)四万十川流域観光の拠点施設の整備、機能強化	○				四万十市 (観光商工課) 観光協会	○拠点施設の拡充、機能強化
		【観光AP9】 (2)二次交通の充実	○	○			四万十市 (観光商工課) 観光協会 幡多広域観光協議会	○二次交通の運行形態の見直し・拡充と情報発信
		【観光AP10】 (3)周遊しやすい環境の整備	○	○	○		四万十市 (観光商工課・関係課) 観光協会 幡多広域観光協議会	○観光案内機能の充実 ○一元的な情報発信の促進 《連携AP8、9、11》
2. おもてなしサービスの充実	・観光客のリピーター率を左右するのは人でありサービス。 質の高いおもてなし、サービスこそがもう一度来たいと思わせるポイント。 ・観光地であることを広く市民が認識し、市民の誰もがおもてなし意識を持ち、地域の魅力を伝えられる観光地づくりが重要。 ・商工分野等と連携し、おもてなし感とリピーターにつながるサービスを提供していくことも必要。	【観光AP11】 (1)観光地としての市民意識の醸成と浸透	○				四万十市 (観光商工課) 観光協会	○市民の参画意識の醸成
		【観光AP12】 (2)リピーター確保に向けた取り組み(特典の充実)	○	○			四万十市 (観光商工課) 観光協会 四万十市観光振興連絡会議 西土佐観光推進協議会 四万十市体験型観光受入研究会	○おもてなし感が感じられる仕組みづくり

※基本戦略: I 足腰を強め、地力を高める II 産業間の連携を強化する III 情報発信と外商の強化 IV 産業の担い手、人材の確保・育成

計画期間						目指すべき姿 (目標値)	産業間連携等
R2	R3	R4	R5	R6	R7		
 ・拠点施設の調査、機能等の検証 ・拠点施設の改修や拡充及び設備等の充実 (四万十ひろば(カヌー館)のオートキャンプ化、しまんとリバーベキュープロジェクト等) ・外国人受入機能の充実・強化						◆公設観光施設等 利用者数 H30:162,247人 →R7:170,000人	県計画地域AP ◆四万十市の地域資源 を活用した通年・滞在 型観光の推進
 ・周遊バス等の運行形態・利用状況の分析、検証 ・観光客のニーズに合致する運行形態(運行本数・経路・時間)の検討、設定 ・市及び関連施設、団体等における分かりやすい情報提供の促進 (HP、案内版、パンフレット等) ・利用しやすい仕組みづくり(【例】期間限定のフリー乗車券導入の検討など) ・自動運転技術の実装化の検討						◆二次交通利用者数 H30:6,164人 →R7:10,000人	
 ・観光窓口のワンストップサービスの提供及び拡充 ・観光案内板及び誘導標識等の現状調査 ・設置箇所及び表示内容の検討 ・観光案内板・誘導標識等の増設と多言語化 ・Wi-Fi環境の整備促進						◆周遊しやすい環境づくりが進み観光誘客につながっている ◆外国人観光客 入込客数 H30:3,287人 →R7:8,000人	【連携AP8】 地域産品の 発信と販路開拓・拡大 【連携AP9】 観光商品の セールス・情報発信 【連携AP11】 “食”の発信 県計画地域AP ◆四万十市の地域資源 を活用した通年・滞在 型観光の推進
 シティプロモーションの推進 ・「川とともにいきるまち」をキャッチフレーズに、市のロゴマークを使用したツール等を活用し、 各産業分野で統一感あるPR活動など、様々な手法でプロモーションを推進							
 ・“市民全てが観光大使”を目指して、地域への愛着や誇りを再認識できる仕組みづくりを推進し 市民の参画意識を醸成 ・小中学校等と連携した観光学習の推進						◆観光地であることを 広く市民が認識し、おもてなし意識と地域の魅力 を伝えられる市民が 増えている	県計画地域AP ◆四万十市の地域資源 を活用した通年・滞在 型観光の推進
 ・宿泊施設・商店街・飲食店が連携したサービスの仕組みづくり ・外国人受入体制の強化・充実 ・玉姫様の通行手形の普及・充実 ・商店街(個店等)のサービスの向上 ・リピート率に向けた取り組みの検討						◆商工業分野等との連携 による多様な仕組み、サービスが生まれている	

※主な内容: ★は新規、◎は拡充、○は継続

戦略の柱4 組織力の強化と観光リーダーの発掘・育成

施 策	背景・課題・視点	アクションプラン	基本戦略				主な事業主体	主な内容
			I	II	III	IV		
1. 観光関連事業者のスキルアップ	・市、観光協会、幡多広域観光協議会が観光振興の核であり、それぞれの役割を明確にし、役割に応じた人材、組織のスキル(コーディネート機能など)を向上し持続していくことが必要。 ・観光協会は、イベントの開催や観光案内が業務の大半を占めており、コーディネート機能や「動く誘客」に向けた営業活動の強化、拡充が必要。 ・多様な実施主体(商工業者、観光事業者、地域等)によるイベントが数多く開催されているが、観光商品として年間通じてトータルにコーディネートできる人材、組織力が不足。	【観光AP13】 (1)観光関連組織の役割分担と組織力の強化	○			○	四万十市(観光商工課) 観光協会 幡多広域観光協議会	○役割分担の明確化とスキル・組織力の強化 ○コーディネーターの育成
		【観光AP14】 (2)異業種との交流・連携の促進	○	○			四万十市(観光商工課) 観光協会	○異業種連携の強化《連携AP7》
2. 観光人材の育成、確保	・地域で核となる人材が不足している。地域の魅力を引き出し、体験メニューやイベント等を企画し持続的に運営していくためには、地域の核となる意欲的な人材が必要。 ・体験メニューやイベント等の開催におけるマンパワーの不足が危惧される。 市内外の学生等を対象に観光ボランティアを募ることで、観光に触れる機会、地域の自然や伝統、文化等を学ぶ機会の創出や観光の将来の担い手確保にもつながる。 ・都市部の学生等をインターンシップとして積極的に受入れることで、多様な観光ニーズの把握、都市圏への情報発信やネットワークを構築、さらには、移住も視野に入れた担い手の確保にもつながる。	【観光AP15】 (1)地域の観光リーダーの育成	○			○	四万十市(観光商工課・関係課) 観光協会 幡多広域観光協議会 四万十市体験型観光受入研究会	○地域のキーマンの発掘、育成
		【観光AP16】 (2)将来の担い手の発掘・育成	○			○	四万十市(観光商工課) 観光協会 幡多広域観光協議会 四万十市体験型観光受入研究会	○インストラクター、ガイドの育成 ○ボランティア等の受け入れ

※基本戦略: I 足腰を強め、地力を高める II 産業間の連携を強化する III 情報発信と外商の強化 IV 産業の担い手、人材の確保・育成

計画期間						目指すべき姿 (目標値)	産業間連携等
R2	R3	R4	R5	R6	R7		
						◆観光人材・組織のスキル(商品企画、営業力等)が向上し、観光誘客の拡大につながっている ◆観光協会の案内機能 R7:強化	県計画地域AP ◆四万十市の地域資源を活用した通年・滞在型観光の推進
・市、観光協会、幡多広域観光協議会の役割の明確化と連携の強化 ・役割分担に応じたスキルの磨き上げと組織力の強化 ・アドバイザー等の派遣による組織の課題解決のための助言、指導等の支援 ・商工、観光関連のイベント等を一元化しトータルにコーディネートできる組織体制等の充実							
							
・着地型、滞在型、通年型の旅行商品の造成、セールス活動の技術向上等につながる勉強会、研修等を実施							
						◆商工業分野等との連携による多様な仕組み、サービスが生まれている	【連携AP7】 滞在型の観光商品づくり 県計画地域AP ◆四万十市の地域資源を活用した通年・滞在型観光の推進
・異業種(農林水産業、商工業など)連携の強化 (異業種間の情報共有、ノウハウや技術の連携による商品の開発の芽出し、サービスの向上や情報発信の強化) ・農林水産業、商工業との連携を促進し、グリーンツーリズムや田舎体験など通年型・滞在型の観光商品づくりを推進							
						◆地域で核となる観光人材が育成されている	県計画地域AP ◆四万十市の地域資源を活用した通年・滞在型観光の推進
・各地域で体験型観光に意欲的なキーマンとなる人材を発掘し、地域ならではの魅力ある体験商品の企画や観光関連組織との連携・調整等を行う観光リーダーとして育成 ・アドバイザー派遣による地域の課題解決のための助言、指導等の支援							
						◆観光人材の育成、レベルアップが図られている ◆観光の担い手確保につながっている	
・多様化する観光ニーズに対応する体験メニューの開発や磨き上げ、また実施段階で必要な技術やノウハウの習得、接遇・コミュニケーション能力の向上のための研修等の実施							
							
・学生や退職者等を中心にボランティアを募集し、体験やイベント等を支援 ・インターンシップ受入にかかる情報発信等の支援							

※主な内容: ★は新規、◎は拡充、○は継続